

令和6年度 横浜市精神保健福祉審議会 第2回 依存症対策検討部会

日 時 : 令和7年1月31日(金)
午後6時00分～午後8時00分
会 場 : 横浜市こころの健康相談センター 会議室
集合形式・Web会議形式併用による開催

《次 第》

1 開会

2 報告

- (1) 令和6年度のこころの健康相談センター等における依存症対策事業実施状況について
- (2) 令和6年度横浜市依存症関連機関連携会議について
- (3) 令和7年度の横浜市依存症対策事業の取組案について

3 議題

第2期依存症対策地域支援計画の骨子案について

4 その他

【配付資料】

- 資料1 こころの健康相談センター等における令和6年度の依存症対策事業実施状況について
- 資料2 令和6年度の横浜市依存症関連機関連携会議について
- 資料3 第2期依存症対策地域支援計画の骨子案

こころの健康相談センター等における
令和6年度の依存症対策事業実施状況について

<こころの健康相談センター及び精神保健福祉課が実施する取組>

実施月	事業・取組	取組詳細
5月	ギャンブル等依存症問題啓発週間	<ul style="list-style-type: none"> ・市庁舎展示スペースでの依存症パネル展 ・公共交通機関等における動画広告の掲出 相談を勧奨する動画を公共交通機関等で放映。 <p>車内広告 横浜市営地下鉄ブルーライン（掲出期間：令和6年5月13日から令和6年5月19日まで）、横浜市営バス・神奈川中央交通バス（掲出期間：令和6年5月1日から令和6年5月31日まで）</p> <p>デジタルサイネージ 横浜駅みなみ通路（掲出期間：令和6年5月13日から令和6年5月19日まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはま5月号（はま情報）の記事掲載 ・横浜市公式 SNS からの発信 ・よこはま企業健康マガジンからの発信
5月～	民間支援団体の活動紹介	<p>こころの健康相談センター会議室を民間支援団体の活動を紹介する場として活用。 開催数：5団体8回開催（令和7年1月時点）</p>
9～10月	スキルアップ研修	<p><第1回> 開催日時：令和6年10月9日 14：00～16：30 開催場所：オンライン開催 テーマ：【基礎編】依存症対応の基礎知識を学ぶ 講師：田中剛氏（矢田の丘相談室代表） 家族の体験談：全国ギャンブル依存症家族の会 神奈川家族メンバー 参加者：53人</p> <p><第2回> 開催日時：令和6年10月11日 14：00～16：30 開催場所：日本丸メモリアルパーク第1・2会議室 テーマ：【応用編】気持ちを引き出すテクニック 講師：田中剛氏 当事者の体験談：栗栖次郎氏（HOPE 湘南ダルク） 参加者：48人</p>

実施月	事業・取組	取組詳細
		<p><第3回> 開催日時：令和6年10月31日 14:00～16:30 テーマ：【テーマ別】高齢者のアルコール健康問題 講師：朝倉崇文氏（北里大学病院精神神経科医師・板橋ファミリークリニック院長） 川井雪詠氏（訪問看護ステーションかわい所長） 参加者：64人</p>
10月	依存症関連啓発資材の関係機関・団体への発送	<p>主に横浜市内の関係団体・機関・関連部署等へ、こころの健康相談センターで作成している広報物を発送し、実情に応じて配架・配布を依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症に悩んでいませんか？ ・家族のハンドブック ・依存症のお悩みを抱えるあなたへ ほか <p>523カ所へ6種類計9,682部発送</p>
11月	アルコール関連問題啓発週間	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関等における動画広告の掲出 相談を勧奨する動画を公共交通機関等で放映。 <p>車内広告 横浜市営地下鉄ブルーライン（掲出期間：令和6年11月11日から令和6年11月17日まで）、横浜市営バス・神奈川中央交通バス（掲出期間：令和6年11月1日から令和6年11月30日まで）</p> <p>デジタルサイネージ 横浜駅みなみ通路（掲出期間：令和6年11月11日から令和6年11月17日まで）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市公式 SNS からの発信 ・よこはま企業健康マガジンからの発信

実施月	事業・取組	取組詳細
11月	アルコール依存症家族向けセミナー	<p>開催日時：令和6年11月24日 14:00～16:30 開催場所：横浜情報文化センター6階情文ホール 市民公開講座 アルコール依存からの回復（横浜市立大学附属市民総合医療センター・横浜市主催）</p> <p>【第1部】 アルコール依存症の早期発見・早期治療～みんなで気づこうアルコール依存症～ 宮内雅利氏（横浜市立大学附属病院精神科助教）</p> <p>【第2部】 依存症家族体験談 樋口温子氏（横浜断酒新生会）</p> <p>【第3部】 山口達也 依存症と共に生きる 山口達也氏（株式会社山口達也代表取締役）</p> <p>【第4部】 アルコール依存症における減酒治療について 宮内雅利氏、樋口温子氏、山口達也氏によるトークセッション 参加者：108人</p>
11月	ゲームに関する啓発ちらしの作成・小中学校での配布（教育委員会と共同実施）	<p>家庭でのゲームとの付き合い方を子どもと話し合い、ルール作りをするきっかけとなること、また、ゲームによる問題がすでに起きている場合に相談につながることを目的とした、保護者向けのちらしを作成し、市立の小中学校で配布。加えて、家庭と学校の連絡システム「すぐーる」を活用したデータ配信を実施。 対象：市立小中学校全学年</p>
3月	依存症関連啓発資材の関係機関・団体への発送	<p>主に横浜市内の関係団体・機関・関連部署等へ、こころの健康相談センターで作成している広報物を発送し、実情に応じて配架・配布を依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症って知っていますか？ ・依存症セルフチェック ・依存症のお悩みを抱えるあなたへ ・令和7年度依存症事業チラシ ほか <p>494カ所へ10種類計34,972部発送予定</p>
通年	若年層向け普及啓発動画の動画広告	若年層向けの依存症の正しい理解を促進する普及啓発動画をYouTubeインストリーム広告にて配信

実施月	事業・取組	取組詳細
通年	インターネットリスティング広告	Yahoo! 及び Google の検索エンジンでの依存症に関連する単語で検索された際に、こころの健康相談センターを案内するインターネット広告の表示
通年	メール相談支援事業	上記広告を活用し、背景に依存症の問題を抱えるハイリスク者を対象としたメール相談を実施
通年	家族等向け支援紹介動画の公開	家族等向け支援紹介動画のインターネット上及び市役所庁舎等での公開
通年	依存症セルフチェックウェブページの公開	Web 上で依存症の簡易スクリーニングテストができるページを公開。 依存対象：アルコール (AUDIT)、薬物 (DAST-20)、ギャンブル等 (SOGS)、インターネット (IAT)
通年	減酒外来におけるアルコール依存症の早期発見・早期継続支援及び普及啓発事業	横浜市立大学への委託事業で、市民総合医療センター内の減酒外来において、以下の取組を実施。 (1) 専門職員を配置し、通院患者・入院患者のアセスメント、依存症治療・支援へのつなぎ (2) 民間団体との連携及び支援情報の収集と整理 (3) 地域の医療機関の医療従事者向けに専門的な医療の知見を活かした研修、一般市民及び依存症者の家族等向けの普及啓発
通年	家族教室	月1回こころの健康相談センター会議室で実施。うち、年2回程度は、公開セミナーとして開催。医療機関、民間支援団体等からの講師による講義・体験談、クラフト。回復施設等のスタッフもアドバイザーとして毎回参加。 延べ参加者：239人(12月時点) ※公開セミナー含む
通年	回復プログラム	全10回×2クールをこころの健康相談センター会議室で実施。延べ55人(12月時点) 回復施設等のスタッフもアドバイザーとして毎回参加。

実施月	事業・取組	取組詳細																					
通年	専門相談	<p>専門相談員による電話・面接・メールでの相談 4月～12月分（速報値）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主たる依存対象</th> <th>延べ件数</th> <th>(参考)R5計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アルコール</td> <td>336</td> <td>452</td> </tr> <tr> <td>薬物</td> <td>103</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>ギャンブル等</td> <td>224</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>ゲーム</td> <td>71</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>203</td> <td>243</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>937</td> <td>1146</td> </tr> </tbody> </table>	主たる依存対象	延べ件数	(参考)R5計	アルコール	336	452	薬物	103	180	ギャンブル等	224	208	ゲーム	71	63	その他	203	243	合計	937	1146
		主たる依存対象	延べ件数	(参考)R5計																			
		アルコール	336	452																			
		薬物	103	180																			
		ギャンブル等	224	208																			
		ゲーム	71	63																			
		その他	203	243																			
		合計	937	1146																			
随時	連携会議	<p><第1回> 書面開催 議題 1、横浜市依存症関連機関の社会資源一覧について 2、アンケート調査への協力依頼について 参加機関：47 機関</p>																					
		<p><第2回> 開催日時：令和6年12月13日 15:00～17:00 場所：横浜市こころの健康相談センター会議室 テーマ：依存対象をやめたい人と減らしたい人への支援等 有識者：小林桜児氏、松崎尊信氏 参加機関：34 機関</p>																					
その他	民間支援団体補助金	<p>民間支援団体の活動を支援するため、団体が実施するミーティングや普及啓発、相談活動等の事業への補助金を交付 交付決定数：7団体12事業 (令和5年度：7団体12事業)</p>																					

令和6年度 横浜市依存症関連機関連携会議について(報告)

1 横浜市依存症関連機関連携会議について

こころの健康相談センターでは、依存症対策事業の連携強化への取組の一つとして、令和2年度から依存症関連機関連携会議（以下、「連携会議」という）を開催しています。

今年度は全体会を2回開催しました。第1回連携会議は書面で開催し「本市の依存症対策や相談・支援の傾向等」についてアンケート調査を実施しました。第2回連携会議では「アンケート結果等をふまえた各機関・団体の取組状況」などについて意見交換しました。

2 令和6年度 第1回連携会議(全体会)の実施報告について

(1) 日程・開催形式

令和6年8月1日(木)から令和6年8月30日(金)まで 書面開催

(2) 議題

- ア 横浜市依存症関連機関の社会資源一覧について
- イ 令和6年度第1回連携会議アンケート調査への協力依頼について

(3) 主な意見等

本市の依存症対策や最近の相談傾向・各機関の取組状況などについてアンケート調査。

【社会資源一覧】

- ・機関名・住所・連絡先以外に、相談可能な依存対象等の概要を記載してほしい。
- ・他機関の取組を知ることは、自機関の支援に役立つほか、自機関の振り返りにもなる。

【連携会議】

- ・連携会議に参加して、依存症支援の流れや他機関・団体の取組を知ることができた。
- ・顔の見える関係ができて、具体的な連携や他機関・団体への紹介につながった。

【普及啓発】

- ・若年層には SNS など、年代等ごとに情報をキャッチしやすい媒体の活用が必要。
- ・自分には関係ないと考える層にも関心を持ってもらえるような啓発の工夫が必要。
- ・自ら検索等しなくても自然と目に入る啓発（交通広告・ポスター・展示等）も大切。
- ・依存症の認知度が高まってきたので、よりわかりやすく発信する工夫が求められる。

【人材育成】

- ・依存症専門機関以外の身近な支援者、教育機関、職場などに向けて、予防教育や依存症の基礎知識などの研修等を実施してほしい。
- ・オンラインやオンデマンド配信等、受講しやすい方法で研修等を開催してほしい。
- ・対応には、個人差がある。支援者全体の底上げが必要ではないか。
- ・座学にとどまらず、実践で知識を活用できるような研修内容等の工夫が必要。

【相談傾向・取組等の状況】

- ・女性や若年層の依存症が増えているが、まだまだ受け皿が少ないと感じる。
- ・クロスアディクションや重複障害、身体合併等、問題の複雑化・多様化により、依存症・福祉・医療等、それぞれ単独の支援では対応が困難となっている。

【地域連携】

- ・自助グループや家族会等、一度参加しても、その後つながらないことが多い。また、つながるまで長い時間がかかる。支援者側にもつなげるための工夫等が求められる。
- ・専門医療機関や専門相談窓口への相談は増加しているが、早期に相談等につながった場合、予防的な助言を求めている、地域の社会資源へのつなぎまでは希望しないことが多いと感じる。
- ・身近な支援者も「依存症かもしれない」と気づく視点を持つことが大切。

【第1回連携会議のまとめ】

- ・依存症は表面上の依存行動の課題だけでなく、背景に様々な生きづらさを抱えていることが多く、適したつなぎ先が見つかりにくいケースが増えている。依存症にとどまらない幅広い知識や社会資源等の情報収集・つなぎが求められる。
- ・依存症が多様化・複雑化し、自機関のみで対応することが困難となってきたため、他機関・団体との連携にあたっては、お互いに「人と人をつなぐ」という意識を持ち、より丁寧に関わることが大切。
- ・機関間のさらなる連携強化のため、他機関の現状や課題・具体的な支援等を知ることは有効。引き続き、連携会議がその機会の一つとなるとよい。

3 令和6年度 第2回連携会議(全体会)の実施報告について

(1) 日程・開催形式

令和6年12月13日(金) 午後3時から午後5時まで 集合及びWEB併用

(2) 議題

テーマ：「依存対象をやめたい人・減らしたい人への支援等について考える」

(有識者) 神奈川県立精神医療センター 小林 桜児 先生

久里浜医療センター 松崎 尊信 先生

(3) 主な意見等

作成予定の社会資源一覧や議題のテーマに沿って意見交換。

【社会資源一覧】

- ・連携会議等の場を通してコミュニケーションを取り、各機関・団体の強みなどが幅広く知られるよう情報発信できるとよい。
- ・情報はなるべく一元化して、わかりやすく発信してほしい。
- ・検索サイト等は一方的な発信になるため、現場の情報をどう吸い上げるのかは課題。

【現状の課題等】

- ・SNS、買い物等、現代社会ではやめることが難しいものへの依存や、ホストなど、医療では対応しきれない、また病院に行こうとは思えないものへの依存も増えている。様々な依存対象があり、社会資源等の情報収集が追いつかない。
- ・やめたい人・減らしたい人が共存する場では、目標の違いから輪が乱れたり、「やめたい」という気持ちが揺らいだりすることがある一方、迷いを発言した時に、相互作用で断酒希望に変わっていくこともある。
- ・依存症が多様化・複雑化したことで、回復の考え方も多様化し、支援者には個々の特性に合わせた対応力が求められ、人材育成も課題となっている。
- ・依存症の問題は、まだまだ地域には馴染んでいないため、依存症の知識を得たり、現場の話聞く機会等を持ってもらうことで、理解が深まっていくとよい。
- ・支援者の間でも「ハームリダクション」の解釈が異なるため、考え方の共通認識を持つことや、支援目標等を共有し理解することが求められる。

【関わり方の変化等】

- ・違法薬物など「減らす」という考え方が馴染まない場合、「やめられない人」、「やめる決心がついていない人」、「やめる自信がない人」というスタンスで関わっている。
- ・以前は、家族は家族、本人のことは本人と明確に境界線を引いていたが、最近は回復し続けている本人と一緒に対話し、家族も連携して関わるのが大切だと感じている。
- ・自助グループや回復支援施設では、「使用しながらでもよい」という考え方で利用は難しいが、現状止まっていなくても、「今はやめられないが、最終的には手放していく」という動機づけをしていくような支援に変わりつつある。
- ・減酒等は依存症の入り口や治療等のハードルを下げるには効果あり。支援から漏れそうな人は、自助グループや回復支援施設などの居場所で救われることもある。

【支援にあたり大切にしていること】

- ・引き金となっている背景が何か知ること、正直に話せたことを評価することが、結果的に減らすこと・やめることにつながる。
- ・回復には、支援者が本人の両面的な思いに寄り添い、自尊心を高めるような関わりを続けることが大切。

【第2回連携会議のまとめ】

- ・依存症からの回復には、人とのつながり、安心できる居場所をつくること、継続的な支援が欠かせない。本人に合った支援等につなぎ、継続して支えていくことが大切。
- ・支援者には、本人が何に困っているか等のアセスメントや、どのようなルートが回復に役立つかな等を見立てるスキルが求められる。
- ・依存対象を断つこと・減らすことの支援等は、どちらも考えていく必要がある。多様化する状態像に対応できるよう、様々な分野の機関・団体がお互いの強み弱みを知り、連携して支援等することが必要。

4 次年度の連携会議について

- ・令和7年度も継続して連携会議を開催します。引き続き現場の意見を丁寧に伺いながら、参加機関・団体とのネットワークの構築を図っていきます。
- ・開催にあたっては、内容に応じて形態を工夫しながら開催していきます。
- ・社会資源一覧の活用や啓発週間等での取り組み、支援者研修等を通じ、依存症の理解に向けた普及啓発や人材育成等に取り組んでいきます。

5 令和6年度 横浜市依存症関連機関連携会議 参加機関・団体一覧

		団体名等	第1回	第2回
1	有識者	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター	○	○
2	有識者	独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター	○	○
3	自助グループ	AA 横浜地区メッセージ委員会	○	
4	自助グループ	横浜断酒新生会	○	○
5	家族会	横浜断酒新生会（家族会員）	○	○
6	自助グループ	ナルコティクスアノニマス 南関東エリア	○	
7	自助グループ	ナラノン・ファミリー・グループ ジャパンNSO	○	
8	家族会	NPO 法人横浜ひまわり家族会	○	○
9	自助グループ	GA（日本インフォメーション）	○	
10	自助グループ	ギャマノン	○	○
11	家族会	全国ギャンブル依存症家族の会 神奈川	○	○
12	自助グループ	あざみ野ファミリー12ステップ	○	
13	専門医療機関	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター	○	○
14	専門医療機関	医療法人誠心会神奈川病院	○	○
15	専門医療機関	医療法人社団祐和会 大石クリニック	○	○
16	医療機関	公立大学法人横浜市立大学附属 市民総合医療センター	○	○
17	医療機関	横浜市立市民病院 神経精神科	○	
18	回復支援施設	NPO 法人 RDP RDP 横浜	○	○
19	回復支援施設	NPO 法人あんだんて 女性サポートセンターIndah(インダー)	○	○
20	回復支援施設	NPO 法人ギャンブル依存ファミリーセンターホープヒル	○	
21	回復支援施設	NPO 法人市民の会 寿アルク	○	
22	回復支援施設	NPO 法人ステラポラリス	○	○
23	回復支援施設	ダルク ウィリングハウス	○	○
24	回復支援施設	日本ダルク神奈川	○	
25	回復支援施設	NPO 法人ヌジュミ デイケアセンターぬじゅみ	○	○
26	回復支援施設	NPO 法人 BB 横浜市地域活動支援センターBB	○	○
27	回復支援施設	一般社団法人ブルースター横浜	○	○
28	回復支援施設	一般社団法人 HOPE	○	○

		団体名等	第1回	第2回
29	回復支援施設	NPO 法人横浜依存症回復擁護ネットワーク 横浜リカバリーコミュニティー	○	○
30	回復支援施設	NPO 法人横浜ダルク・ケア・センター	○	
31	回復支援施設	NPO 法人横浜マック 横浜マックデイケアセンター	○	○
32	回復支援施設	株式会社わくわくワーク大石	○	○
33	回復支援施設	認定 NPO 法人ワンデーポート	○	
34	関連機関	NPO 法人のびの会	○	○
35	支援機関	社会福祉法人同愛会地域活動ホームくさぶえ 都筑区基幹相談支援センター	○	
36	支援機関	社会福祉法人神奈川県匡済会 横浜市踊場地域ケアプラザ	○	○
37	支援機関	公益社団法人総合保健医療財団 横浜市港北区生活支援センター	○	○
38	支援機関	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団 横浜市高次脳機能障害支援センター	○	○
39	支援機関	社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター	○	○
40	司法機関	神奈川県司法書士会	○	○
41	行政機関	法務省 横浜保護観察所	○	○
42	行政機関	横浜市港南区福祉保健センター高齢・障害支援課 高齢者支援担当	○	○
43	行政機関	横浜市泉区福祉保健センターこども家庭支援課	○	
44	行政機関	横浜市旭区福祉保健センターこども家庭支援課	○	○
45	行政機関	横浜市都筑区福祉保健センター高齢・障害支援課 障害支援担当	○	○
46	行政機関	横浜市鶴見区福祉保健センター高齢・障害支援課 障害者支援担当	○	
47	行政機関	横浜市健康福祉局生活支援課	○	○
48	行政機関	横浜市中区福祉保健センター生活支援課	○	
49	行政機関	横浜市南部児童相談所	○	○
50	行政機関	横浜市青少年相談センター	○	○



資料 3

第2期 横浜市依存症対策地域支援計画

骨子案について

健康福祉局 精神保健福祉課

2025年1月31日

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

次期依存症対策地域支援計画が目指すもの



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER



2040年 共をめざす都市像
「暮らしやすく誰もが
WELL-BEINGを実現できるまち」

戦略2
「誰もがいきいきと生涯活躍できるまちづくり」

政策14
暮らしと自立の支援

主な施策5 依存症対策の充実（施策指標：支援者向け研修受講者数）

依存症の本人や家族等が気軽に相談し、早期に支援につながり、回復に必要な支援を受けることができるよう、正しい理解の促進と偏見の解消、相談先の普及・啓発に取り組みます。行政、医療、福祉・保健、教育、司法などの幅広い関係機関や民間支援団体等が連携し、関係者が一体となって依存症対策の取組を進めます。

<基本理念>

依存症の本人や家族等の抱える困難が軽減され、
より自分らしく健康的な暮らしに向かって
進み続けるようにできること

依存症対策地域支援計画の概要



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

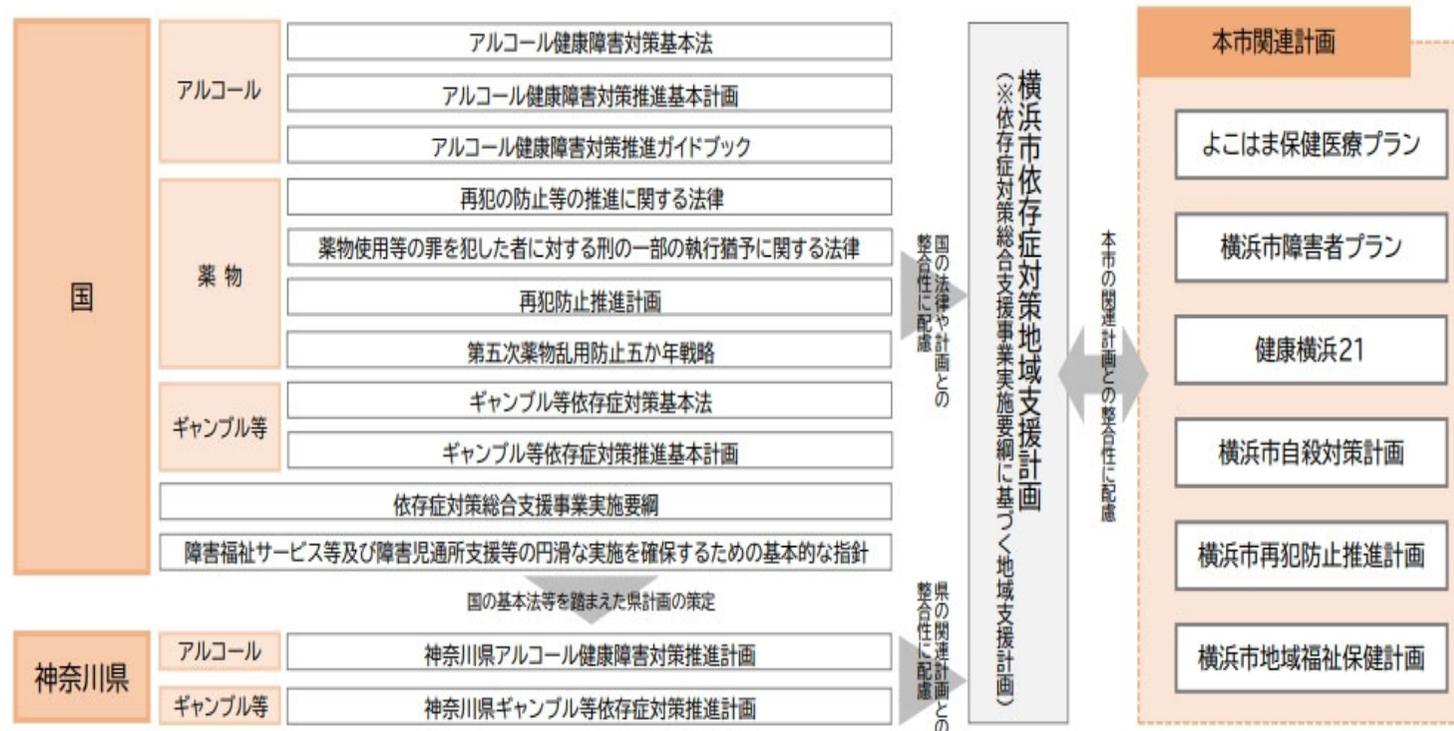
厚生労働省の依存症対策地域支援事業実施要綱で定められた地域支援計画として、本市における一層の依存症対策の推進を図るため、市と関係者が一体となって進める依存症対策の取組を定めた計画（任意計画）

- ・2021年度(令和3年度)に第1期計画を策定
- ・次期計画の計画期間は令和8年度～令和12年度(5年間)

依存症対策地域支援計画（現行）の位置づけ



明日をひらく都市
OPEN × PIONEER



依存症対策地域支援計画（現行）の概要



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

基本理念

依存症の本人や家族等の抱える困難が軽減され、
より自分らしく健康的な暮らしに向かって進み続けるようにできること

基本方針

依存症の予防及び依存症の本人や家族等が自分らしく健康的に暮らすための支援に向け、
関係者がそれぞれの強みを生かしながら、連携して施策を推進すること

一次支援
(予防・普及啓発)

【重点施策1】
予防のための取組

【重点施策2】
依存症に関する正しい理解、
知識を広めるための普及啓発

二次支援
(早期発見・早期支援)

【重点施策3】
相談につながるための
普及啓発

【重点施策4】
身近な支援者等から
依存症支援につなげるための取組

三次支援
(回復支援)

【重点施策5】
専門的な支援者による
回復支援の取組

【重点施策6】
地域で生活しながら、
回復を続けることをサポートする取組

依存症相談の傾向 (横浜市こころの健康相談センター依存症相談窓口の相談傾向)



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

アルコール依存症

- ・相談対象者は男性が多いが、女性の割合も増加。
- ・男女ともに30代から増加し、40～50代で一気に増加。
- ・40代以上が過半数を占め、女性は30代の割合が多い。
- ・女性の相談件数は倍に増加（R3 87件→R4 187件）。
- ・他の依存症では若年層が増えているが、アルコール依存症は中高年・高齢者の相談が増加し、出口支援が困難となっている。

薬物依存症

- ・相談対象者は男性が多い。
- ・男性は40代以上、女性は30代以下に多い。
- ・違法薬物が6割を占めていたが、処方薬、市販薬の依存が徐々に増加。令和4年度に同程度の割合になった。
- ・処方薬、市販薬は男女とも30歳以下が中心。女性は顕著な増加傾向。

ギャンブル等依存症

- ・相談対象者は男女で比較すると圧倒的に男性が多く、女性は全体のほぼ10%程度。
- ・男性は一時的に40代から50代の世代が多くなった。
- ・令和2年度を除き、20代、30代の若年層が中心。
- ・令和4年度からは10代の相談も入るようになった。
- ・コロナ禍以降、オンラインギャンブルが増え、短期間での高額借金等が増え、20代～30代の若年層の対象者が急増している。

その他の依存症（ゲーム、買い物、性など）

- ・その他の依存症は、女性からの相談が多い。
- ・男性は30代以下、特にゲームの相談が多い。
- ・犯罪や多額な借金問題の相談も増加傾向。
- ・コロナ禍以降、買い物・ホスト・性などの相談が増加。
- ・若年層を中心に、依存症相談では対応困難な相談増加。
- ・発達障害や精神疾患等が背景にある相談者が増加。

本市の依存症の現状と課題



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

本市の現状と課題

- ・対象者に応じた手法・多様な媒体を活用した効果的な啓発の実施の必要性
- ・依存症の治療・支援等のみでは対応困難な相談の増加
- ・背景の生きづらさや依存症の多様化・複雑化による回復の仕方の多様化
- ・依存症対策と関連施策の更なる連携
- ・現場が必要な情報を吸い上げる仕組みづくり
- ・更なる依存症の理解と実践での知識の活用

関係者からの意見

- ・若年層の依存症の実態把握と対策の強化
- ・オンライン化など時代や社会情勢の現状にあわせた対策
- ・お互いの強み弱みを活かした関連機関との連携強化
- ・居場所づくりと関連施策との連携
- ・多様化・複雑化する依存対象への対策と関連施策との連携
- ・支援者全体の底上げ
- ・必要な支援が届く仕組みの強化

本市の現状と課題や関係者からの意見をもとに、
特に注力すべき施策として重点施策を設定する

第2期計画の方向性

基本理念、基本方針、3つの支援フェーズなど計画の枠組みは現計画を継続する。

現計画では、3つの支援フェーズをさらに重点施策1から6までに細分化していたが、これを見直し、本市の依存症の現状と課題を解決するために特に注力すべき施策を重点施策と位置付ける。

また、第2期計画では、基本理念を達成するための数値目標を新たに設定する。

第2期計画の方向性



基本理念
依存症の本人や家族等の抱える困難が軽減され、
より自分らしく健康的な暮らしに向かって進み続けるようにできること

基本方針
依存症の予防及び依存症の本人や家族等が自分らしく健康的に暮らすための支援に向け、
関係者がそれぞれの強みを生かしながら、連携して施策を推進すること

一次支援
依存症に関する正しい理解、
知識を広めるための普及啓発と
予防の取組

二次支援
相談につながるための普及啓発
と身近な支援者等から依存症支
援へつなげるための取組

三次支援
専門的な支援者による 回復支
援と地域で回復を続けることを
サポートする取組

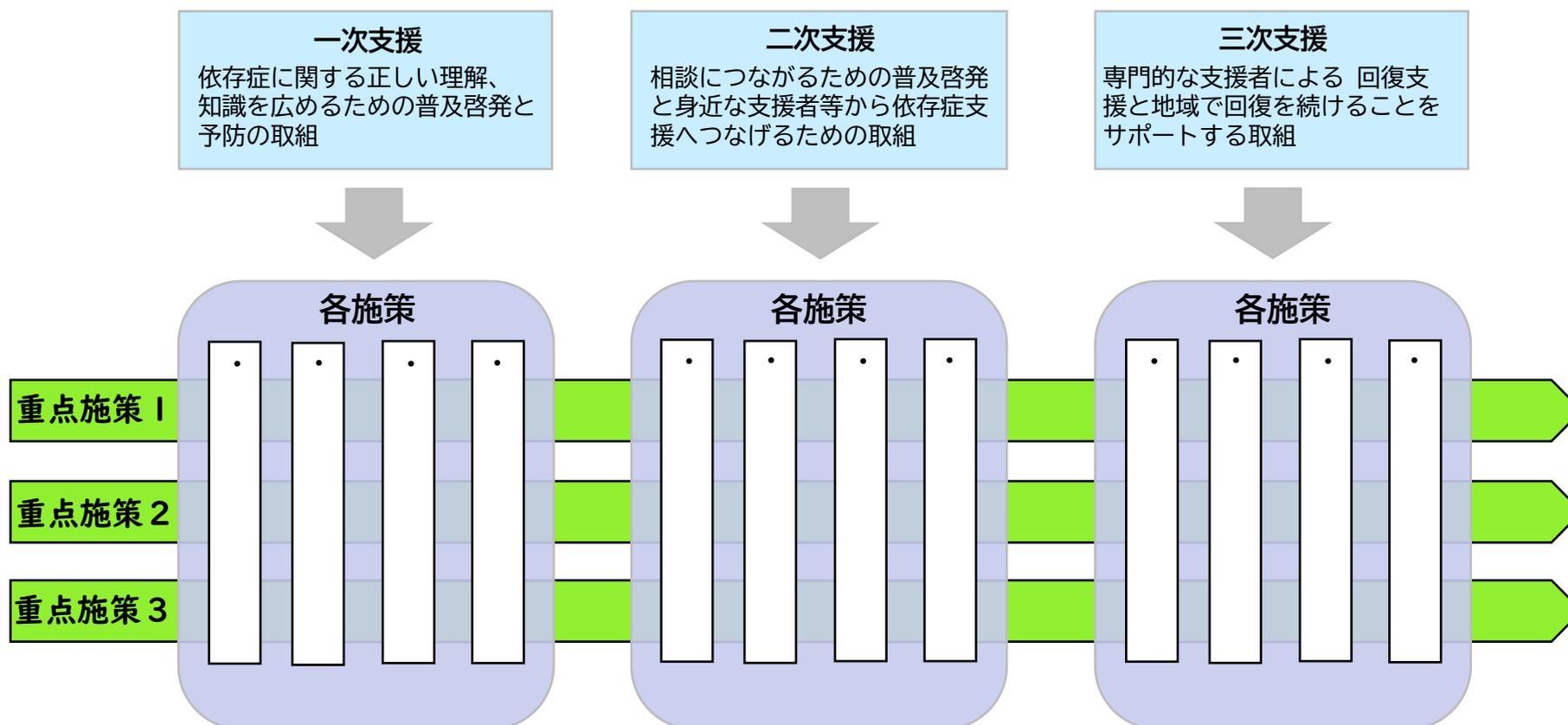
達成目標
の状態

正しい理解・知識が広まり依存症に対する誤解や偏見がなくなり、依存症になるリスクが高い状況にある人やその周辺の人に向けて効果的な啓発活動ができていることで、依存症の発症が予防できている

依存症の本人・家族等が適切な相談支援機関につながることができ、周辺課題等を専門とす身近な支援者等が適切に依存症支援につなぐことができている

必要に応じて専門的な支援者による 回復支援が実施できており、依存症の本人やそう家族等が地域で孤立せずに回復を続けることができている

第2期計画の方向性



第2期計画の方向性

第1期計画では、具体的な数値目標が設定されておらず、計画に基づく施策の達成状況が見えにくかったという点を踏まえて第2期計画では3つの支援フェーズごと具体的な数値目標を掲げることとする。

第2期計画（案）

一次支援、二次支援、三次支援のそれぞれの支援フェーズごとの数値目標を新たに設置（連携会議参加機関数、依存症専門相談の相談件数など）

第1期計画

具体的な数値目標なし

第1期に行った主な取組（一次支援）



重点施策		成果	年度	実績
一 次 支 援	重点施策1 予防のための取組	ゲーム障害関連リーフレット「家族で考えよう!ゲームとのつきあい方」の配布	R3	市内500校の小中学校(小3~中3)に約174,000部配布。
			R4	市内499校の小中学校(小3~中3)に約177,000部配布。
			R5	市内498校の小中学校(小1~中3)に約264,000部配布。
		区役所等の関係機関における依存症関連リーフレット・チラシの配架・配布 ・依存症って知っていますか ・依存症のお悩みを抱えるあなたへ ・依存症家族教室のご案内 ・横浜版依存症回復プログラムWAI-Yのご案内ほか	R3	庁内機関120カ所、外部機関804カ所に配布
			R4	庁内機関120カ所、外部機関828カ所に配布
			R5	庁内機関121カ所、外部機関829カ所に配布
	重点施策2 依存症に関する正しい理解、知識を広めるための普及啓発	動画サイト、電車広告、デジタルサイネージなどで依存症の正しい理解を促進する普及啓発動画の広告を配信	R3	JR横浜線、相鉄線、横浜シーサイドライン、神奈中バス、みなとみらい線、横浜市営地下鉄及び横浜市営バスの車内、駅等で依存症の相談奨励動画を放映
			R4	JR横浜線、相鉄線、神奈中バス、みなとみらい線、横浜市営地下鉄及び横浜市営バスの車内、駅等で依存症の相談奨励動画を放映 新横浜駅プロジェクターサイネージで依存症の相談奨励動画を放映
			R5	相鉄線、神奈中バス、横浜市営地下鉄及び横浜市営バスの車内、駅等で依存症の相談奨励動画を放映 横浜駅みなみ通路デジタルサイネージで依存症の相談奨励動画を放映 YouTube広告で依存症啓発動画を放映(2,053,423回再生)
			R3	横浜市が交付する民間団体活動支援事業補助金を活用し、民間支援団体等が講演会等を実施(5団体で10回)
			R4	横浜市が交付する民間団体活動支援事業補助金を活用し、民間支援団体等が講演会等を実施(5団体で9回)
			R5	横浜市が交付する民間団体活動支援事業補助金を活用し、民間支援団体等が講演会等を実施(5団体で15回)

第1期に行った主な取組（二次支援）



重点施策		成果	年度	実績
二期 発見・早期 支援	重点施策3 相談につながるための 普及啓発	検索エンジンで依存症関連ワードを検索した際に依存症 メール相談につなぐ広告を表示	R3	—
			R4	広告表示回数:260,842回 相談受付延件数(継続相談者含む):125件
			R5	広告表示回数:665,025回 相談受付延件数(継続相談者含む):125件
		依存症セルフチェックによる相談勧奨	R3	セルフチェック実施件数:1,901件(令和4年2月3日~3月31日)
			R4	セルフチェック実施件数:10,915件
			R5	セルフチェック実施件数:19,676件
	重点施策4 身近な支援者等から依 存症支援につなげるた めの取組	連携会議の開催	R3	開催回数:5回 参加機関:48機関
			R4	開催回数:4回 参加機関:50機関
			R5	開催回数:3回 参加機関:48機関
		支援者向けガイドライン「入門・イチから学ぶ依存症 支援~横浜市内で依存症及び関連課題に携わる支 援者向けガイドライン~」の策定	R3	連携会議の場等を活用し、内容の検討
			R4	初版を10月に策定 207機関に256冊配布、56冊販売。
			R5	第2版を10月に策定 330機関に330冊配布、11冊販売。

第1期に行った主な取組（三次支援）



重点施策		成果	年度	実績
三次支援 回復支援	重点施策5 専門的な支援者による回復支援の取組	依存症回復プログラム「WAI-Y」の実施	R3	参加実人数15人(延61人)参加
			R4	参加実人数19人(延113人)参加 第19回「精神科治療学賞」優秀賞受賞
			R5	参加実人数:10名(延42人参加)
		依存症家族教室の実施	R3	参加人数:99人
			R4	参加人数:116人
			R5	参加人数:101人
		民間支援団体等による様々な活動の実施	R3	民間支援団体補助金により、7団体が相談、ミーティング、普及啓発活動を13事業実施
			R4	民間支援団体補助金により、6団体が相談、ミーティング、普及啓発活動を11事業実施
			R5	民間支援団体補助金により、7団体が相談、ミーティング、普及啓発活動を12事業実施
	重点施策6 地域で生活しながら、回復を続けることをサポートする取組	連携会議における事例検討など支援に係る情報の収集と共有	R3	※詳細は別紙
			R4	※詳細は別紙
			R5	※詳細は別紙
依存症回復支援団体の活動紹介による各団体の活動内容の共有		R3	—	
		R4	—	
		R5	4団体がこころの健康相談センターで当該団体の活動を紹介	

計画の骨子（案）



第1章：計画策定の趣旨

趣旨、位置づけ、計画期間、計画で取り扱う依存対象
推進体制、進行管理

第2章：横浜市の現状と課題等

横浜市における依存症の状況

市民意識調査結果、関係者からの意見等から見た主な課題

第1期計画の評価

第3章：横浜市の依存症対策における基本理念と取組の方向性

基本理念・基本方針・3つの支援フェーズ

具体的な取組内容・重点施策

具体的な数値目標

今後のスケジュール（予定）



明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

	精神保健福祉審議会・庁内連携会議	依存症検討部会	その他
R7.1		第2回検討部会（骨子案検討）	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画に基づく依存症対策の取組状況、評価 ・市の関連計画との整合性の確認 ・関連施策の検討
2	庁内連携会議（書面開催）		
3	精神保健福祉審議会（骨子案検討）		
4			
5			医療機関等へのアンケート・ヒアリング調査の実施
6		第1回検討部会（素案の検討）	
7			
8			
9			素案作成
10		第2回検討部会（原案検討）	素案公表・意見公募
11			
12		第3回検討部会（市民意見募集結果）	
R8.1			
2			
3	第2期計画策定		